

# 舞鶴市 地震ハザードマップ

## 揺れやすさマップ

### 地震ハザードマップとは

地震ハザードマップとは、舞鶴市に大きな影響を及ぼす活断層地震の震度、建物被害の分布及び液状化の危険度を示したものです。

#### 地震ハザードマップの使い方

その1：マップを見て、自分の家が建っているところをチェックしましょう。  
 その2：よく行くところ、よく通る道をチェックしましょう。  
 その3：避難所を確認し、家族・地域で連絡方法や集合場所等について話し合っておきましょう。

### 災害時の連絡方法

災害時の連絡方法を、家族で事前に確認しておきましょう。

#### 「171」災害用伝言ダイヤル

伝言を録音する時は **1** → (0000)□□□□□□ → 伝言を吹き込む  
 被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の人は被災地の人の電話番号を市外局番から入力  
 伝言を再生する時は **2** → (0000)□□□□□□ → 伝言を聞く

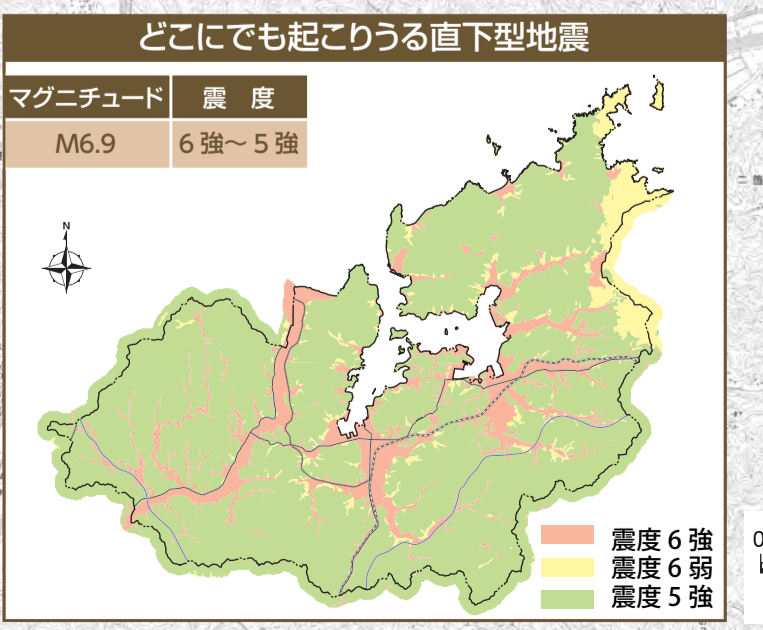
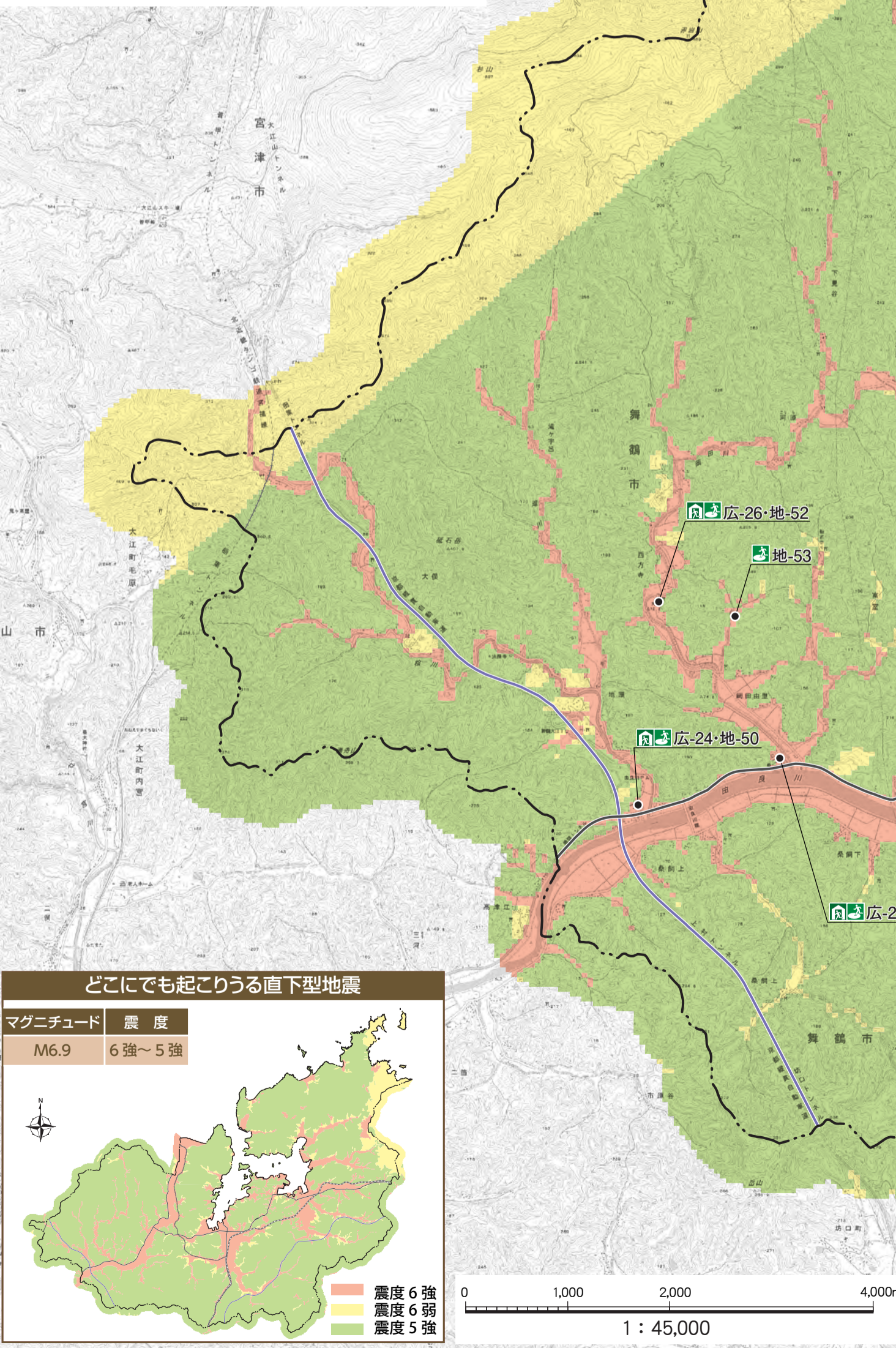
#### 災害用伝言板サービス

○ 震度6以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。  
 ○ それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。(詳しくは携帯電話各社へご確認ください)

### 情報の入手方法

ホームページ	気象庁 <a href="http://www.jma.go.jp/jma/">http://www.jma.go.jp/jma/</a> 京都府(きょうと危機管理WEB) <a href="http://www.pref.kyoto.jp/kikiweb/">http://www.pref.kyoto.jp/kikiweb/</a> 舞鶴市 <a href="http://www.city.maizuru.kyoto.jp">http://www.city.maizuru.kyoto.jp</a>
テレビ	NHK データ放送など
メール	まいづるメール配信サービス 避難の指示や避難所開設などの防災情報を地域別に配信(事前登録が必要です。市ホームページからコードより登録) 緊急速報メール 気象庁の発表する緊急地震速報、津波警報および市が発する避難情報を携帯電話に一斉配信(登録不要) ※携帯電話の機種により、受信設定が必要な場合や対応していない場合があります。

発行：平成25年3月 舞鶴市  
 連絡先：舞鶴市 企画管理部  
 危機管理室危機管理・防災課  
 〒625-8555 舞鶴市宇北吸1044番地  
 電話：0773-66-1089(直通)



### 震度階級表

震度	被害状況
震度4	ほとんどの人が驚きます。電灯などが大きく揺れ、塵の多い置物が倒れたりします。
震度5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまらなくなると感じます。棚の食器類や本が落ちることがあります。
震度5強	物につかまらなくなり歩行が困難です。棚の食器類や本が落ちるものが多くなります。補強のないブロッカーが倒れることがあります。
震度6弱	立っている事が困難になります。耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがあります。
震度6強	はわないと動くことができせん。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなります。
震度7	耐震性の低い鉄筋コンクリート建物は、倒れるものが多くなります。耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがあります。

出典：気象庁・震度と揺れ等の状況(概要)より

### 地震時の行動

#### 緊急地震速報

緊急地震速報を活用して身を守りましょう  
 最大震度5弱以上が指定される場合、テレビやラジオ、まいづるメール配信サービス、緊急速報メールなどを通して緊急地震速報が発せられます。発表から強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に慌てず自分や家族の身を守ることを優先して行動しましょう。  
 ※震源に近い地域では、緊急地震速報が揺れに間に合わない場合があります。

#### 地震発生

1～2分	○まずは落ち着いて自分の身を守る ○すばやく火の始末 ○ドアや窓を開けて逃げ道を確認
3分	○火元を確認し、出火していたら初期消火 ○家族の安全を確認 ○非常時持ち出し品を手元に用意する
5分	○ラジオなどで正しい情報を確認 ○家屋倒壊などの恐れがあればすぐ避難
5分～10分	○さらに出火防止を
10分～数時間	○消火・救出活動

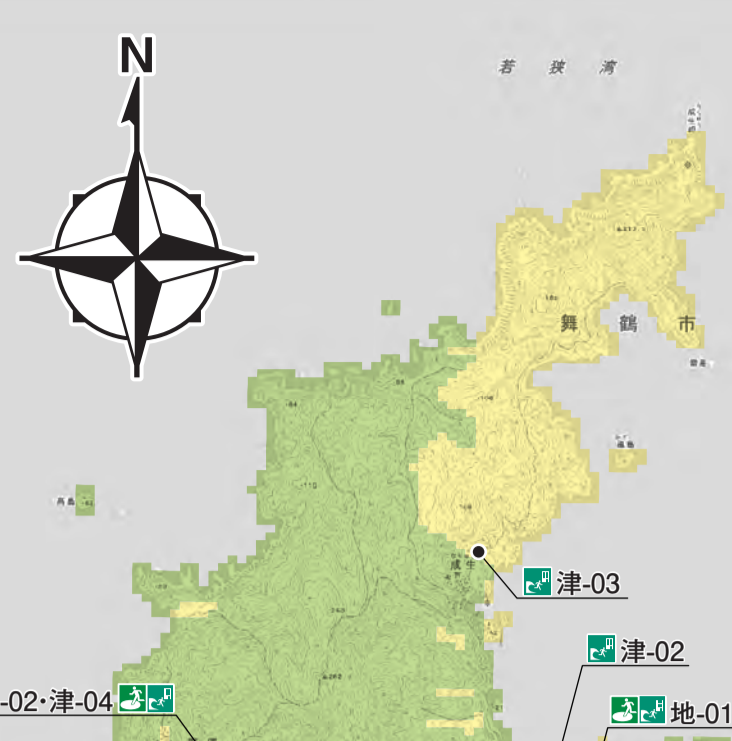
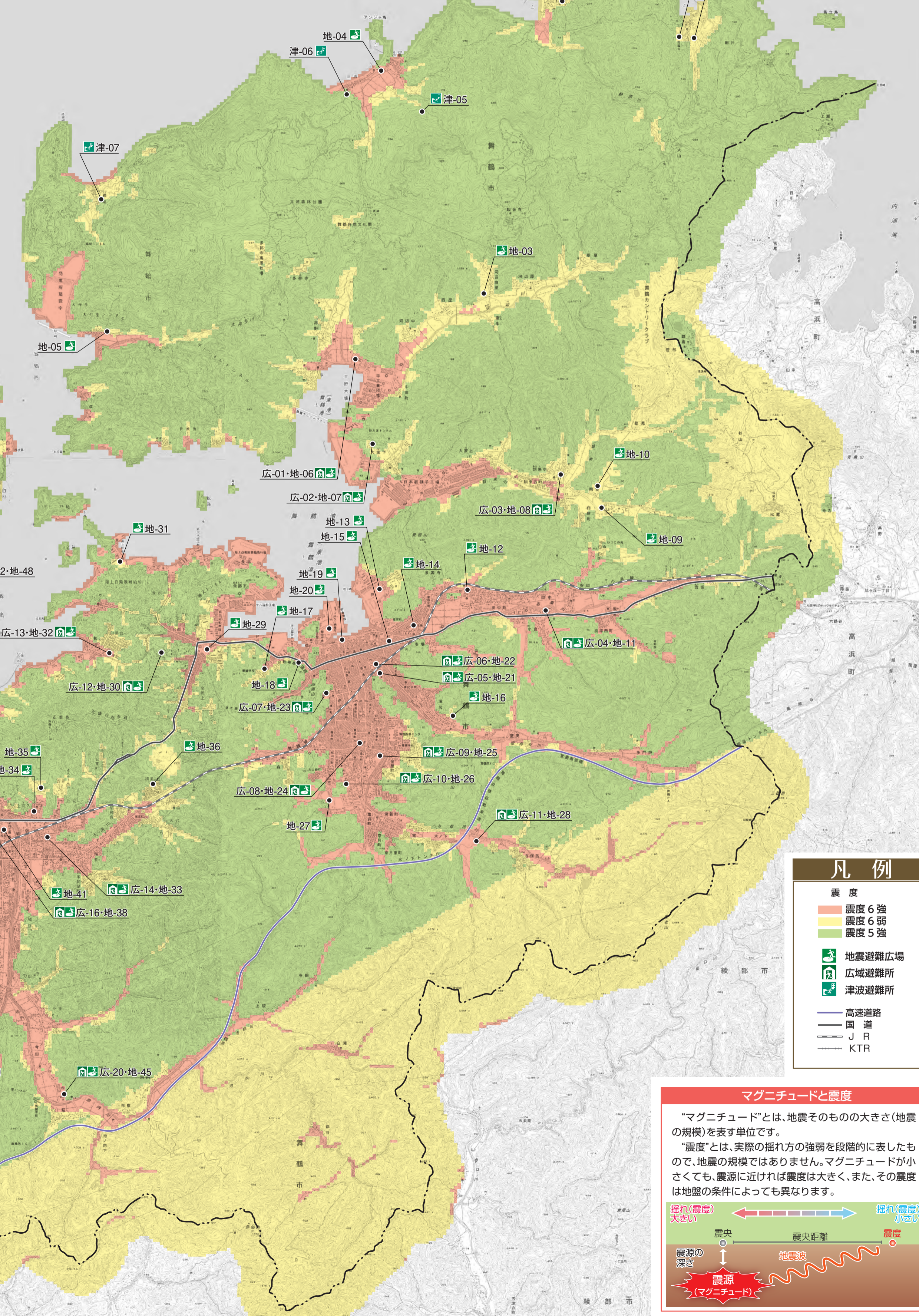
#### 避難するときは…

○慌てず落ち着いて	○車ではなくできるだけ徒歩で
○割れたガラスなどを踏まないように靴を履く	○落下物に注意

### 津波警報・注意報の分類ととるべき行動

予想される津波の高さ	巨大地震の場合の表現	とるべき行動	想定される被害
10m超	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
10m		ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	標高の低いところでは津波が高い。浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
5m		海の中にいる人は、ただちに海から上って海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は強い流れに巻き込まれる。種類いだが流失し、小型船が転覆する。
3m	高い		
津波注意報			
津波警報			
1m	-		

出典：気象庁



### 揺れやすさマップとは

揺れやすさマップとは、上林川断層地震、郷村断層帯地震、山田断層帯地震、養父断層帯地震、三峠断層帯地震、若狭湾内断層帯地震の6つの地震の計測震度を重ね合わせ、最大となる震度を示したものです。

※地震防災マップ作成技術資料(内閣府:平成17年3月)に基づき、1辺約50mのメッシュ単位の地域で作成しています。

#### 上林川断層帯地震

マグニチュード	震度
M7.2	6強～5弱

#### 郷村断層帯地震

マグニチュード	震度
M7.4	6弱～5弱

#### 山田断層帯地震

マグニチュード	震度
M7.4	6強～5弱

#### 養父断層帯地震

マグニチュード	震度
M7.4	6弱～4以下

#### 三峠断層帯地震

マグニチュード	震度
M7.2	6弱～4以下

#### 若狭湾内断層帯地震

マグニチュード	震度
M6.9	6弱～4以下

#### 凡例

- 震度: 震度6強 (赤), 震度6弱 (オレンジ), 震度5強 (黄), 震度5弱 (緑)
- 地震避難広場 (緑の四角)
- 広域避難所 (青の四角)
- 津波避難所 (青の四角)
- 高速道路 (赤線)
- 国道 (黒線)
- J/R (黒線)
- KTR (黒線)

#### マグニチュードと震度

“マグニチュード”とは、地震そのものの大きさ(地震の規模)を表す単位です。  
 “震度”とは、実際の揺れ方の強弱を段階的に表したもので、地震の規模ではありません。マグニチュードが小さくても、震源に近ければ震度は大きく、また、その震度は地盤の条件によっても異なります。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号平24情複、第670号)